2025年度　共通テスト 国語（現代文）　第1問（論理的文章）

【本文解説】

アーリーのまなざし論

まなざし … ある対象を「見る」ことで、他方は「見ない」という選別

観光する側

… 帰属社会によって決定される好みによって「見る」を選別

観光される側

… 観光者の期待を「見せ」、自らの生活は「見せない」という選別

まなざしの暴力性 … 境界線の恣意性を見えにくくし、権力性を再生産する

観光者による要求は「演出」にとどまることなく「舞台裏」まで拡張

（A観光地住民の「戦略」はルネに綱渡りである。）

↓ 演出 … 観光者の要求に応じて「見せている」もの

↓ 舞台裏 … 観光者の要求に応じたくない「見せない」、もの

観光者のまなざしは、「見せたくない」にまで及ぶようになった

＝ 文化本来の姿を維持することが困難に

B「見る」ことは「する」との対比で無価値

＝ 観光客 …「見る」だけのよそ者 ⇅ 生活者…生活「する」側が主役

十九世紀のなかばに旅行が変容

＝ 「する」から「見る」への転換（成り下がった）

↑ お決まりの批判であるが、Cことはそれほど単純でもない。

← 批判が観光の形を変えていく

従来：無理解や無関 ⇅ 二〇〇〇年以降：「体験」「交流」「学習」

「見る」観光から「する」観光への転換

近年、観光現象だけでなく観光研究の視座までもが更新を迫られる

＝ 身体性や振る舞いを重視する視点（「パフォーマンス的転回」）

↓ 視覚には限界があるものの、視覚が観光体験の中心にある

「見る」か「する」の二者択一の議論は不毛

＝まなざし（視覚性）とパフォーマンス（身体性）は「Dともに踊る」

かつての人類学者の視点

ロマン主義的まなざし（他者を排除する）

… 他の観光者がいないことが観光地の価値を高める

集合的まなざし（他者を取り込む）

… 他の観光者がいることが観光地の価値を高める

都市は「見ること」と「見られること」を媒介する（Eともに踊る）

＝ 「相互のまなざし」

F観光における「見る/見られる」を考える上で、サファリパークは示唆的である。

出所：高岡文章「観光は『見る』ことである／ない―『観光のまなざし』をめぐって

【設問解説】

問2：内容説明

a 観光客の要求が拡大

b 観光地生活者の文化をも要求対象に

c 観光地生活者の生活全域を観光者の要求に適合

問3：内容説明

a 観光客は「見る」だけで観光地とは無関係

b 観光地生活者のは生活「する」主役

問4：理由説明

a 批判によって変化がもたらされる

b 変化前：観光地をソトから「見る」

c 変化後：観光地をウチから「する」

問5：内容説明

a 「見る」と「する」は一体的

b

問6：内容説明

a 「相互のまなざし」の具体例

b 動物の生活圏に踏み入る点で一般的な展示とは異なる

c 観光客は見る主体であると同時に見られる客体にもなる

基本技術

真偽判定パターン

○：同義部分のみ　×：同義部分＋相違部分／書いていない部分

設問回答パターン

内容説明

1. 傍線部・選択肢を「要素」に文節化

2. 個々の「要素」を傍線部と選択肢で比較

理由説明

1. 「因果関係」の「原因」と「結果」を決定

2. 「原因」と「結果」の論理を選択肢で繋ぐ

Copyright © 2025 Admy Study. All Right Reserved.